



地域と学ぶ市大生 パソコンなんでも相談室

ふじいしんご
情報科学研究科(博士前期課程)1年 藤井信吾

本事業は、パソコンやスマートフォンなどの情報機器に関するお悩みや疑問の解決を行いながら、私たちが普段大学で学んでいる情報科学に関する知識を広島市民や地域社会に還元するとともに、私たち自身のコミュニケーション能力の向上を目的としています。2018年度は、普段からお世話になっている大学周辺の受講者を増やすため、本学サテライトキャンパスのほか、地元の沼田公民館でも開催しました。

一般の講習会とは異なり、受講者一人ひとりに学生がマンツーマンで対応し、相談内容を事前に把握した上で、説明資料を作成します。当日はその資料をもとに一緒に操作などを行ってもらい、あとで資料を見て一人でも操作できるよう工夫しています。このため、アンケートでは、「とても満足」「満足」といった回答が9割以上を占め、毎回高い評価をいただいています。また、私たち学生側も、教えることで学ぶことができ、コミュニケーション能力の向上の場ともなっています。

また、本事業は2007年から現在まで毎年市内各地で開催している恒例事業となっていますが、マンネリ化させないためにも毎年新しい取り組みにもチャレンジしています。今後も地元の皆様との交流を深め、より身近な存在になれるよう大学での勉学に努めていきたいと考えています。



地域のお祭りに学生も参加 大塚・伴南ふれあい祭り

7月21日(土)に開催された第23回大塚・伴南ふれあい祭りに本学のサークルS2と国際学生寮さくらの学生が参加しました。S2はフルーツポンチを、国際学生寮さくらはかき氷をそれぞれ販売し、大変盛況でした。小中学生や一般の方の出し物や花火大会などさまざまな催し物が行われるこのお祭りは、大塚・伴南地区の大きなイベントのひとつとなっています。

ひだまさひろ
サークルS2として参加した国際学部3年の菱田将広さんの感想

大塚・伴南ふれあい祭りでは、S2として出店させてもらい、地元の方々と交流しました。地域の方と直接交流できる貴重な機会であり、毎回新しい発見を得ています。大塚・伴南地域から多くの方がお祭りに携わられており、テントやステージ設営等の事前準備から当日のお祭りの運営、後片付けまで地元の方が中心となって開催されています。地域主体で行われているということもあり、数多くの参加者が訪れ、毎年大変賑わっています。私達も地域の大学生として、このようなお祭りに携わることができ嬉しく感じるとともに、S2として、さらに地域に還元できることがないか、違った形で地域の発展に貢献することができないか、といった思いも強くなりました。今後も、大塚・伴南地域に関する活動ができればと考えています。



産学連携による地域貢献を目指して 産学連携研究発表会

本学では、研究内容の紹介や教員との交流を通じて、共同研究への発展や研究成果の事業化を目的とする「広島市立大学産学連携研究発表会」を2003年より毎年開催しています。

今回は、近年、いわゆる第4次産業革命と呼ばれるIoT、ビッグデータ、AI等の技術開発に注目が集まっており、また、本学にも関係する研究者が多く在籍していることから、9月21日(金)、まちづくり市民交流プラザにおいて「AI(人工知能)とビッグデータでできること」をテーマに開催しました。(出展42ブース)

第1部の講演会では、(株)イズミで執行役員未来創造推進本部長兼チーフ・デジタル・オフィサーを務められている岩佐朱美氏にご講演いただき、引き続き、本学教員の事例発表を行いました。

第2部のマッチングセッションでは、本学教員の各分野での研究成果の展示を行い、AIおよびビッグデータの研究と活用について、ロボットを使用したデモを行うなど、わかりやすく紹介しました。

発表会の開催により、産学の連携がさらに進み、本学の研究成果が地域の発展に貢献することが期待されます。



平和への願いを込めて光を発信 8.6ピースラインメッセージ

2018年の平和記念日8月6日は、はからずも今年の豪雨災害から一月目でもありました。この日、(株)広島東洋カーブの協力を得て、本学のボランティア学生たちが中心となり、マツダスタジアムから「ピースラインメッセージ」を発信しました。

これは、原爆ドームと同じ高さ(25メートル)に位置する観客席に約1800個のキャンドルを灯し、この特別な日に、広島県内外の方々に向けて光のメッセージを発することで、広島への、平和への想いをらせてもらおうというものです。カーブの本拠地が現在のマツダスタジアムに移って以降、8月6日に試合がない年に行われています。

一つひとつのキャンドルの火は、広島平和記念公園の「平和の灯」、福岡県八女市星野村の「平和の火」から採火した火種から灯されたものです。平和記念公園での採火式には本学学生ボランティアも出席しました。

当日は留学生や研究生も含めた多数の学生ボランティアが参加し、猛暑の中、長時間にわたり準備、点火、後片付けを行い、無事イベントは終了しました。広島東洋カーブからも本年度新入団選手9名が参加し、学生達と共に点火していただきました。



事例でみる市大の地域貢献

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念としている本学は、広島市の公立大学として、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。ここでは、本学の地域貢献活動の事例を紹介します。



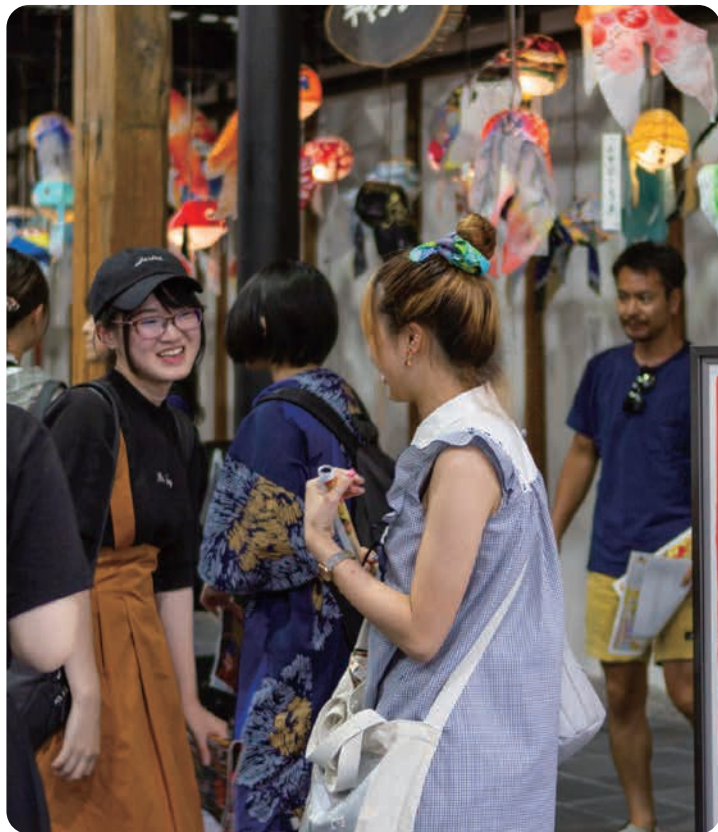
[COC+] 広島市立大学COC+アートプロジェクト

柳井プロジェクト 「NEW GOLDFISH」

2018年7月～9月に山口県柳井市で行われた第27回柳井金魚ちょうちん祭りに合わせて、デザイン工芸学科1年生44名がやない西蔵にて展覧会「NEW GOLDFISH」を開催しました。

5月に柳井市と大島郡周防大島町の暮らしを学生達が自ら取材を行い、それを基に新たな金魚ちょうちんのデザイン・制作に挑戦しました。柳井市

でのプロジェクトは初めての試みであったため、どのような反応があるか不安ではありましたが、学生達の発想力で作られた作品が会場を彩り来場者を楽しませました。また、期間中には訪れた方々にお気に入りの作品に投票をしていただき、柳井金魚ちょうちんNo.1決定戦を開催し、圧倒的な得票数で富田菜月さんの「金魚まみれ」が学生のデザイン金魚ちょうちん44匹と柳井市のオリジナル金魚ちょうちん1匹を合わせた45匹の頂点に輝きました。8月13日(月)には柳井本祭りにて現地取材を行い、学生10名による金魚ちょうちんプロジェクトチームを立ち上げました。現在ドキュメントブックを制作しており、3月の完成を目指しています。



芸術学部1年 富田菜月「金魚まみれ」

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

人と社会の複雑性

UN Women(国連女性機関)インターン **本田 綾里**さん(2016年3月国際学部国際学科卒業)

国際学部を卒業後ロンドンの大学院に進学し、現在はニューヨークのUN Women(国連女性機関※1)でインターンをされている本田さんにお話を伺いました。

本田さん(左)と綾里さん(右)のインタビューの様子

一市大に入学した理由を教えてください。

ジェンダー(※2)と開発を学びたいと考えていました。原爆ドームや平和資料館も近くにある広島という特別な環境でジェンダーを学ぶことが、とても面白そうだと思います。他にも人種や国際政治など、関心のあるものが多くて。

大学院専門コースのクラスメイトと(右から2番目が本田さん)

一英語を学ぶきっかけはありましたか。

とにかく多くの情報にアクセスしたかったこと、言語の壁を越えて人と話をしたかったことです。ジェンダー学も、英語で読み書きができるようになる情報量が圧倒的に多くなる。そして、もともと人見知り

で引込み思案なのですが、英語を喋るときは不思議と明るく社交的になれる自分がいて、英語を学ぶことが体が楽しかったです。

本田さん(左)と綾里さん(右)のインタビューの様子

一大学時代にはどのようなことを学びましたか。また、市大での思い出があれば教えてください。

ジェンダー論で観た「愛より強く」という映画が印象に残っています。トルコ系ドイツ人の男女が、偽装結婚をしてイスラム教信仰の強い女性側の家族から逃れるという映画。ジェンダー、人種、宗教、暴力、女性＝貞淑という規範、さまざまな要素が複雑に交差した映画でした。安全保障論では、「核兵器をなくせ」という理想はもちろん持ってもいいけれど、なぜそれが実践できないのか、先進国と途上国の複雑な利害関係を学びました。友人も多様で、留学する子もたくさんいれば、広島の地元企業と積極的に活動を行っている子もいます。私は今海外に出ているからこそ、自分の原点を生きた大地と外国という広いフィールド、どちらも交互に見ながら活動をしていく大切さを理解し始めています。市大時代の授業や友人からの学びは、今の国連での仕事にとっても役に立っています。

UN Womenのインターンとして活動中

一現在の仕事について教えてください。UN Womenでインターンをしています。来春ニューヨークで行われる国際会議に向けて、安全保障や核兵器廃絶、武装解除、武器輸出入、そしてもちろんジェンダー問題に関する会議に出席し、ジェンダー問題に対してどの国が、どんなアプローチを取っているかのレポートを日々作成しています。核兵器や紛争には常に女性や子どもへの性暴力がつきまとうので、各国がどれだけその問題に向き合っているかを調査しています。

一ニューヨークではどんな生活をされていますか。いまは仕事に慣れることや、初めての米国での生活に適應するため、チューニングをしています。休日は新しい人と会うこともあります。が、一方で、日本にいる家族や親しい友人と連絡を取り合い、自分



本田綾里(ほんだ・あやり)さん 広島市立大学国際学部国際学科2016年3月卒業。その後The London School of Economics and Political Science修士課程で修士号を取得。

を応援してくれる人のありがたさ、温かさを感じています。他にも、アメリカのコメディ番組を見ながら、フランクな英語を学んだり、アメリカの笑いのツボを観察したりしています(笑)。イギリスでの大学院時代からジムにも通っています。

一海外で働くうえで心がけていることや、日本との違いがあれば教えてください。

同僚や上司とささいなことでもコミュニケーションを取り、リスペクトし合える環境づくりに貢献するよう心がけています。一つの部署に故郷も母語も違う人々が集まるからこそ、細かいコミュニケーションを怠ってしまうと、簡単に無理解な関係に陥ってしまうと思います。あとは、「自分を大切にこそ社会に貢献できる」という考えをみんな共有していると思いました。体調や仕事の進み具合で、遅く来ることもあれば、途中で病院に行くこともある。逆に早起に来て早く帰る人もいる。自分にちょうど良い働き方で自由に働けるからこそ、心に余裕が出て、同僚をリスペクトしあえる環境が出来ているように思います。

本田さん(左)と綾里さん(右)のインタビューの様子

一今後の活動や、目標などがあれば教えてください。個人的な目標として、「2040年までに性暴力とハラスメントをゼロにする」という目標があります。もちろん性暴力の対象は女性だけではなく、国連というのはとても大きな組織に見るけれど、巡り巡っては、社会にいる一人ひとりが、自分の隣に座る大切な人の、その人らしさを大切にできる、そんな社会づくりに貢献していると考えて仕事をしています。

一最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

私は今、仕事がとても楽しいです。素晴らしい上司と同僚に囲まれて、「未来の自分への力になっている」と実感できる仕事が出来ています。それはつい3年前まで市大で、「やりたい」と思うことに向き合い、その都度小さな目標の一つひとつ挑戦していたからだと思います。海外に行くのも良い。地元で何かするのも良い。でも必ず、自分の心の中の「これがしたい」に正直でいて、何か一つでも行動を起こしてください。そうするうちに応援してくれる人が増え、「こうありがたい!」自分像に近づいていると思います。

UN Womenのインターンとして活動中

綾里さん(左)と本田さん(右)のインタビューの様子

ハワイ・ヒロシマをつなぐ平和ボランティア活動

本学の学生が、ハワイ大学短期語学留学(参加者15名、9月2日(日)～16日(日)実施)に合わせ、ハワイで平和ボランティア活動を行いました。

現地のプナホウ学園の生徒らと協力し、世界からアリゾナ記念館(真珠湾)を訪れた方々に対し、原爆の子の像の由来や佐々木禎子さんについて英語で説明し、一緒に折り鶴を折ることで平和への願いを共有するというもので、2014年から始まったこの語学留学プログラムで初めて実施したものです。

代表を務めた国際学部1年の清水裕子さんは「当初複雑な気持ちを抱えていました。真珠湾で活動することが少しチャレンジング過ぎないかと懸念していたからです。しかし今では、真珠湾で平和の重要性を発信したからこそ、非常に意義のあるものになったと思っています。スペイン人女性が目に涙を浮かべて私の話を聞いてくださったことが一番印象に残っています」と振り返っていました。

また、当初は真珠湾で折り鶴を教えるだけの計画でしたが、同学部1年の飯田景佳さんがハワイから広島に折り鶴を持ち帰り、原爆の子の像に捧げることを提案します。飯田さんは「折り鶴に託された、平和を願う世界中の人々の思いを広島に持ち帰りたいと思ったからです。実際に鶴を持ち帰れたことは、今が平和である証のように感じました。戦争をもたらす悲劇、平和の尊さを共に訴えていく重要性をあらためて受け止めました」と理由を語りました。この折り鶴には、平和への願いを込めたメッセージを書いてもらっており、広島に戻った後、9月27日(木)、ハワイから持ち帰った89羽の折り鶴を原爆の子の像に捧げました。

真珠湾での平和ボランティア活動を広島での活動につなげることで広島にある本学の学生ならではの活動となりました。



アリゾナ記念館でのボランティアの様子



折り鶴を捧げる本学の学生代表

学生レポート

この記事は、「学生広報サポーター」に登録している市大生自ら取材をして作成しました。

フランス語で会話し、語学力向上を目指す

情報科学部1年 丸 照正

ランゲージチューター(ランちゅー)を知っていますか?常日頃からランゲージラウンジで行われている、外国語会話のレッスんです。といってもひと味もふた味も違います。それは先生にも生徒にもなれる場だからです。外国人留学生在が母国語を、日本人学生が日本語を教え合うというもので、教える側と教わる側がウィンウィンの関係で教え、教わることのできる制度です。

実際にランちゅーを利用している国際学部1年の村上彩季花さんとフランスからの留学生フランク・クラヴィエさんにお話を聞きました。村上さんは5月から、毎週火曜日3限目にランちゅーを利用してフランクさんにフランス語を教えてもらっています。内容はフランス語の授業の予習と復習をやっているそうです。

村上さんは「将来フランスに留学したいと思っています。フランス語の授業では文法を多く教わり、実際に会話する機会は少ない。会話ができる機会を増やしたいと思いランちゅーを利用しました。フランス語の時間に先生とフランクが話しているのを聞いて、聞き取れるのが嬉しい」と笑顔で話していました。

フランクさんは「人に教えることが好きです。将来はフランス語の先生になりたいと思っています。その練習の場として利用しています。フランス語は発音が大事になってくるので、教えるときに訛りがないように気を付けています」と言い、村上さんのフランス語については「フランス語の時間に、先生の質問に彩季花が1番に答える。一番上手だね」と折り紙付きのようです。

最後に「ランちゅーで世界の言語を勉強して、文化交流の場にしてほしいです」とフランクさんは呼びかけました。

※ランゲージチューターに登録している学生は33人(2018.11.12時点)

日本語20人、中国語10人、韓国語3人、英語2人、フランス語2人、ドイツ語2人(支援可能な言語を複数登録)



ランゲージチューターの様子(左がフランクさん、右が村上さん)

west breeze

西日本豪雨復興缶バッジのデザイン制作

平成30年7月豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

地域の大学として、少しでも被災地域の復旧・復興を支援しなければならないとの思いで、本学の学習環境の確保と並行し、災害復旧ボランティアの派遣、義捐金の募集などを行いました。

被害の大きさに比べてあまりにも微力であり、また、今なお復興途上ですが、参加した学生たちにとっては大きな体験でした。

災害復旧ボランティア

本学では7月14日(土)から10月下旬までほぼ毎週末、学生・教職員が豪雨災害で被災した広島県内でボランティア活動を行い、延べ199名が参加しました。一日も早い復興を願いながら、土砂の撤去作業や家財片付けなどを行いました。ボランティアに多く参加した学生4名に、現場での活動や思いについて、感想をもらいました。

被災地の復旧活動の様子

<p>私は合計4日間、ボランティアに参加し、主に瓦礫や泥の撤去作業を行いました。 被災下の活動だったため、最初は本当に大変で、目の前の泥や瓦礫にばかり集中していました。しかしふと見渡すと自転車やテレビなどの生活用品が山のように積まれており、日常生活の中に突然このような災害が起きたのだと知らされました。その度に胸が痛かったです。完全に復興するまではまだ時間がかかると 생각합니다。それでも、私の4日間の活動が、微力ながらも復興の手助けになれば幸いです。</p>	<p>国際学部4年 植谷 ひかりさん</p>
--	------------------------

<p>実際にボランティアに行ってみると、想像していた以上に被害が大きくて驚きました。行くたびにまだボランティアが必要だと実感しました。また、行った先で人の優しさに触れることも多く、とてもやりがいを感じました。</p>	<p>情報科学研究科(博士前期課程)2年 光成 勇樹さん</p>
--	----------------------------------

<p>今回の活動を通じ、災害復旧には、初期活動が大きな役割を果たすため、時間も体力もある我々は、積極的に被災地に行くべきと実感しました。併せて、直接的な支援以外の活動の大切さも感じました。ソーシャルメディア世代の私たちが、大衆メディアでは伝えきれない現地の状況を捉え、広く共有することが、支援の輪の拡大と充実につながります。災害から5カ月が経ち、報道の量も少なくなりつつあります。これからも折に触れ被災地を振り返り、自分にできることを考えることが大切だと思います。</p>	<p>芸術学部3年 和田 高幸さん</p>
--	-----------------------

被災地の復旧活動の様子

西日本豪雨復興缶バッジのデザイン制作

朝日新聞社から依頼を受け、芸術学部の学生4名が西日本豪雨(平成30年7月豪雨)復興缶バッジのデザインを制作しました。教員のアドバイスを受けながら制作に取り組み、朝日新聞社内でも高い評価を受けたとのこと。缶バッジは義捐金の返礼品として、朝日新聞社が各地で開くイベント会場などで手渡されます。

復興缶バッジのデザイン制作の様子(左から丸山さん、阿部さん、阿部さん、丸山さん)

<p>■おめでとうございます ■本学大学院における博士学位取得者(2018年度 秋季修了)</p>	<table> <tbody><tr> <th>氏名(敬称略)</th> <th>学 位</th> </tr> <tr> <td>Eleanor Carson</td> <td>博士(学術)</td> </tr> <tr> <td>伊藤 崇</td> <td>博士(情報工学)</td> </tr> <tr> <td>酒井 達弘</td> <td>博士(情報科学)</td> </tr> </tbody></table>	氏名(敬称略)	学 位	Eleanor Carson	博士(学術)	伊藤 崇	博士(情報工学)	酒井 達弘	博士(情報科学)
氏名(敬称略)	学 位								
Eleanor Carson	博士(学術)								
伊藤 崇	博士(情報工学)								
酒井 達弘	博士(情報科学)								

■情報科学研究科の学生が電子情報通信学会コンピュータシステム研究会で受賞
2018年3月、情報科学野球部(博士前期課程)2年の寺本圭吾さんが優秀若手講演賞を受賞。

■情報科学研究科の学生らがThe 2018 IAENG International Conference on Data Mining and Applicationsで受賞
2018年3月、情報科学部4年の橋田修一さん、情報科学研究科の田村慶一准教授、情報科学研究科(博士後期課程)3年の酒井達弘さんが発表した論文が、「The Best Paper Award for The 2018 IAENG International Conference on Data Mining and Applications」(最優秀論文賞)を受賞。

■情報科学研究科の学生がITC-CSCC2017で受賞
2018年6月、情報科学研究科(博士前期課程)情報工専攻2年の山下裕司さんが昨年行われたITC-CSCC2017において「Best Paper Award」を受賞。

■芸術学研究科の学生が第7回ドローイングとは何か展で受賞
2018年7月、芸術学研究科(博士後期課程)総合造形芸術専攻1年の大島さんが大賞を受賞。

■芸術学部の学生が日本七宝作家協会国際展で入選
2018年7月、芸術学部1年の栗根誠一郎さんが入選。

■情報科学研究科の串田講師がGECCO2018のCompetitionで優勝
2018年7月、情報科学研究科の串田淳一講師がCompetition on Niching Methods for Multimodal Optimizationにおいて優勝。

■芸術学部の教員らが再興第103回院展で受賞
2018年8月、芸術学部の前田力准教授が奨励賞を受賞。その他、教員や学生、卒業生らが多数入選。

■情報科学研究科の常盤講師が第45回日本低温医学会総会で受賞
2018年8月、情報科学研究科の常盤達司講師が「Gold Medal (Nikolai N.Korpan Award)」を受賞。

■情報科学研究科の修士生がSLDM優秀発表学生賞を受賞
2018年8月、情報科学研究科修士生の久保田直哉さんがSLDM優秀発表学生賞を受賞。第39期奨学生に選出。

■チーム「HCU CA研」が第8回 相模湾カップ FPGAデザインコンテストで準優勝
2018年9月、チーム「HCU CA研」(情報科学研究科の児島彰助教、情報科学研究科(博士前期課程)2年の能勢陽平さん)が準優勝。

■芸術学部の学生が国際瀧富士美術賞で受賞
2018年9月、芸術学部美術学科彫刻専攻4年の大村知空さんが優秀賞を受賞。第39期奨学生に選出。

■芸術学部の野田准教授が新匠工芸会展で受賞
2018年10月、芸術学部の野田美准教授が福垣賞を受賞。

■芸術学部の学生と協力研究員の高さんがTokyo Midtown Award 2018で受賞
2018年10月、芸術学部デザイン工芸学科染織造形3年の田中優菜さんが優秀賞、審査員特別賞を、芸術学研究科(博士前期課程)修士生で芸術学部協力研究員の高瑞雪さんが優秀賞を受賞。

■芸術学部の木工室安全指導員の王谷さんが宮島特産品振興大会で受賞
2018年10月、木工室安全指導員の王谷千沙さんが広島ブランド大賞を受賞。 ※学年は受賞当時

<p>■市大ニュース</p>	<p>※学年は受賞当時</p>
----------------	-----------------

■情報科学研究科の学生が佐藤国際文化育英財団奨学生に選出
2018年6月、芸術学研究科(博士後期課程)総合造形芸術専攻2年の岡田志保さんが公益財団法人佐藤国際文化育英財団第28期奨学生に選ばれました。

■2018年度特待生が決定
2018年6月、学部2～4年生の各年次から、国際学部3人、情報科学部5人、芸術学部2人、計30人の学生が選ばれました。特待生制度では、成績優秀で、かつ他の学生の模範となる学生を表彰。副賞として奨学金が贈られます。

■長崎平和の鐘の鐘式を開催
毎年、広島市および長崎市の平和記念日に原爆犠牲者の冥福を祈り、1分間の黙祷を捧げるとともに、原爆投下時刻に「長崎平和の鐘」を打鐘しています。長崎平和の鐘は、被爆50周年を記念して、日本労働組合総連合会(連合)、日本労働組合総連合会長崎県連合会(連合長崎)および日本労働組合総連合会広島県連合会(連合広島)の三者により、1995年(平成7年)10月31日に広島市に寄附され、本学構内に設置されたものです。

■軟式野球部の壮行会を開催
2018年8月、本学軟式野球部の「全日本大学軟式野球選手権大会」出場壮行会を本学の図書館内いちこめで開催しました。なお、壮行会は同日に行われたホームカンパニーの冒頭で開催され、青木学長が激励の言葉を贈るとともに学内の教職員等から贈ったお祝い金を同部に手渡しました。また、本学後援会からは助成金が支給されました。

■マレーシア科学大学の学生が来学
2018年8月、本学が企画する短期受入プログラムにより、マレーシア科学大学の学生9人と教員1人が来学し、平和学習や交流を行いました。

■キャリアセンターが移転
2018年10月、キャリアセンターは本棟樓1階から、講義棟3階に移転しました。これまで情報科学部・研究科分室(222室)が担当していた就職関連業務をキャリアセンターに移管し、全学部・研究科の関係業務をキャリアセンターで一括して実施することになりました。

<p>■外部資金の獲得 本学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や民間の各種財団からの助成金などを受けて活発な学術研究活動を行っています。これらの外部資金を活用し、独創的・先駆的な研究に取り組んでいます。 ●2018年度科学研究費補助金採択状況<研究科目別></p>	<table> <tbody><tr> <th>研究種目名</th> <th>件数</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td>基礎研究(A)一般</td> <td>1</td> <td>7,410千円</td> </tr> <tr> <td>基礎研究(B)一般</td> <td>6</td> <td>25,090千円</td> </tr> <tr> <td>基礎研究(C)一般</td> <td>45</td> <td>59,670千円</td> </tr> <tr> <td>若手研究(A)</td> <td>2</td> <td>9,100千円</td> </tr> <tr> <td>若手研究(B)</td> <td>6</td> <td>5,720千円</td> </tr> <tr> <td>若手研究(C)</td> <td>3</td> <td>2,990千円</td> </tr> <tr> <td>挑戦的萌芽研究</td> <td>2</td> <td>2,080千円</td> </tr> <tr> <td>挑戦的研究(萌芽)</td> <td>1</td> <td>2,730千円</td> </tr> <tr> <td>新学術領域研究</td> <td>1</td> <td>8,190千円</td> </tr> <tr> <td>研究活動スタート支援</td> <td>2</td> <td>1,950千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>69</td> <td>124,930千円</td> </tr> </tbody></table>	研究種目名	件数	計	基礎研究(A)一般	1	7,410千円	基礎研究(B)一般	6	25,090千円	基礎研究(C)一般	45	59,670千円	若手研究(A)	2	9,100千円	若手研究(B)	6	5,720千円	若手研究(C)	3	2,990千円	挑戦的萌芽研究	2	2,080千円	挑戦的研究(萌芽)	1	2,730千円	新学術領域研究	1	8,190千円	研究活動スタート支援	2	1,950千円	合計	69	124,930千円
研究種目名	件数	計																																			
基礎研究(A)一般	1	7,410千円																																			
基礎研究(B)一般	6	25,090千円																																			
基礎研究(C)一般	45	59,670千円																																			
若手研究(A)	2	9,100千円																																			
若手研究(B)	6	5,720千円																																			
若手研究(C)	3	2,990千円																																			
挑戦的萌芽研究	2	2,080千円																																			
挑戦的研究(萌芽)	1	2,730千円																																			
新学術領域研究	1	8,190千円																																			
研究活動スタート支援	2	1,950千円																																			
合計	69	124,930千円																																			

<p>●2017年度受託研究費・共同研究費・助成金・補助金・奨学金寄附金</p>	<table> <tbody><tr> <th>区分</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> <tr> <td>受託研究費・共同研究費</td> <td>60</td> <td>91,982千円</td> </tr> <tr> <td>助成金・補助金</td> <td>4</td> <td>64,707千円</td> </tr> <tr> <td>奨学金寄附金</td> <td>11</td> <td>9,694千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>75</td> <td>166,383千円</td> </tr> </tbody></table>	区分	件数	金額	受託研究費・共同研究費	60	91,982千円	助成金・補助金	4	64,707千円	奨学金寄附金	11	9,694千円	合計	75	166,383千円
区分	件数	金額														
受託研究費・共同研究費	60	91,982千円														
助成金・補助金	4	64,707千円														
奨学金寄附金	11	9,694千円														
合計	75	166,383千円														

令和元年(2019年)の外部資金獲得状況

<p>▼この本 ～教員の著書紹介～</p>	<p>情報科学部 石光俊介 教授 「人間工学の基礎」石光俊介、佐藤寿紀 2018年8月、養賢堂</p>
-----------------------	---

<p>▼教員の人事異動</p>	<table> <tbody><tr> <th>区分</th> <th>氏 名</th> <th>職 名</th> </tr> <tr> <td>新任</td> <td>梶山 朋子</td> <td>情報科学研究科准教授(10月1日付け)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>河 実珍</td> <td>広島平和研究所准教授(10月1日付け)</td> </tr> </tbody></table>	区分	氏 名	職 名	新任	梶山 朋子	情報科学研究科准教授(10月1日付け)		河 実珍	広島平和研究所准教授(10月1日付け)
区分	氏 名	職 名								
新任	梶山 朋子	情報科学研究科准教授(10月1日付け)								
	河 実珍	広島平和研究所准教授(10月1日付け)								

「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学 企画・広報委員会
○E-mail:kikaku@cm.hiroshima-cu.ac.jp
○Tel:082-830-1666 ○Fax:082-830-1656
WEST BREEZEのバックナンバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌「WEST BREEZE」」に掲載しています。

広報誌名
広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」(「WEST BREEZE」の略称)は、広島市立大学のある西風新部にちなんで命名されました。編集・発行 / 広島市立大学 企画・広報委員会
発行日 / 2018年12月1日